

◇ 8月の天文暦 ◇

日 時	記 事
1 18	望
5 22	土星 月の北 2° 通過
7 ^d ~15 ^d	ペルセウス座 γ
7 21	水星 留
8 2	金星が木星の南 0°:1 通過
8 9	立秋 (太陽黄経 135°)
9 22	下弦
16 16	水星西方最大離角
16 21	朔
23 12	上弦
23 23	処暑 (太陽黄経 150°)
31 9	望

星雲めぐり (7)

中心核を真直な棒が貫いて、その先端から渦状腕がはじまる形の星雲を、正常な渦状星雲と区別して棒渦状星雲と名づけている。この種の星雲は明るい星雲の15%を占め、はじめてカーチスにより認められた当時は ϕ 型渦状星雲と暫定的に呼ばれていたが、ハブル分類型ではS型同様腕の巻き具合にしたがって、SBO, SBa, SBb, SBc と分類され、渦状腕が内側のリングに接して出発している形 (r)、棒の両端からはじき出ている形 (s) に更に細分類される。

写真 NGC 1097 はコルドバ天文台でほぼ天頂を通過する南天の棒渦状星雲 (SBb(s), $\alpha=2^h44.^m8$, $\delta=-30^{\circ}29'$, 炉座) で、小さな楕円型星雲 (E5?) を伴って

いる。左右の棒の片側に沿ってくっきりと吸収条が走り、棒の両端ではコブ状に明るい部分が凝集して、腕が出發している。視線速度 1250 km/sec を採用すると、距離は 7.1 Mpc となり、棒の長さは約 8 kpc となる。中核部は直径 1.6 kpc 程度の大きさで、その構造については更に詳しい写真と輝線 ($H\alpha$, [NII]) の観測によって調べられている。その結果では、最中心部 (直径 0.6 kpc) は無定形核の集りて、その外側は環状の構造をしていることが廻転曲線の不連続からも裏づけられている。とくに中核部の大きな廻転速度からは、中核部の大質量と高平均密度が勧定され、また中核から星雲銀河面方向の膨張速度成分も加わっているのではなからうかと予想されている。

渦状腕をもった星雲でS型とSB型と二つの違った系列の星雲が存在するのは大変興味のある問題ではあるが、星雲生成のそもそも最切に何等かの条件があつてのことなのであろうという程度から一歩前進することが非常に困難なようである。(UJ)



東京における日出入および南中 (中央標準時)

Ⅷ月	夜明	日出	方位	南中	高度	日入	日暮
日	時分	時分		時分		時分	時分
1	4 11	4 48	+23°8	11 47	73°0	18 46	19 24
11	4 20	4 56	+20.0	11 46	70.1	18 36	19 12
21	4 29	5 4	+16.0	11 44	67.0	18 24	18 59
31	4 38	5 11	+11.8	11 42	63.2	18 11	18 45

各地の日出入補正值 (東京の値に加える)

(左側は日出, 右側は月入に対する値)

分	分	分	分	分	分			
鹿児島	+41	+33	鳥取	+20	+25	仙台	-11	+2
福岡	+39	+36	大阪	+17	+18	青森	-15	+8
広島	+29	+30	名古屋	+10	+13	札幌	-22	+10
高知	+26	+24	新潟	-3	+9	根室	-40	-4

